

## 浜松市立図書館評価（平成29年度）

## 1 利用に関する評価結果について

項目	単位	実績	目標	達成率	自己評価	外部評価
		29	29			
人口	人	804,989	803,381		—	—
利用に関する評価					B	B
新規登録者数	人	25,519	26,125	97.68%		3
有効登録者数	人	174,802	189,433	92.28%		2
登録率	%	21.71%	23.58%	92.09%		2
年間貸出冊数	冊・点	4,539,778	4,475,350	101.44%		4
市民1人当たりの貸出数	点/人	5.64	5.57	101.24%		4
登録者1人当たりの貸出数	点/人	25.97	23.62	109.93%		5
年間貸出利用者数	人	1,159,037	1,156,802	100.19%		4
相互貸借						
借受数	冊	3,007	—	—		評価せず
貸出数	冊	2,104	—	—		評価せず
年間入館者数	人	2,766,545	2,738,135	101.04%		4
市民1人当たりの入館回数	回	3.44	3.41	100.84%		4
図書館HPアクセス数	件	1,334,809	1,400,350	95.32%		3
市民1人当たりの図書館HPアクセス数	件	1.66	1.74	95.13%		3

## 【自己評価】

## 【評価の内容】

- 評価対象 11 項目について、達成率に基づく 5 段階評価の結果は、評価 5（1 項目）、評価 4（5 項目）、評価 3（3 項目）、評価 2（2 項目）となり、平均評価点で 3.45（28 年度 2.91）となったことから、「利用に関する評価」としては 3 段階による自己評価を B（28 年度 C）とした。
- 都田図書館の開館から 2 年目を迎え、年間貸出冊数、年間貸出利用者数及び年間入館者数は減少に転じたものの、ほぼ目標値どおりに推移した。有効登録者数は都田図書館が開館する以前の平成 27 年度実績よりも減（平成 27 年度比 4.46%減）となっており、これは人口の減少率（平成 27 年度比 0.36%減）より大きい。
- 図書館 HP アクセス数は平成 25 年度以降増加し続けているが、今年度の対前年度比は 1.36%増（26 年度 51.00%増、27 年度 6.88%増、28 年度 1.82%増）と鈍化している。平成 24 年 10 月にインターネット上での予約が可能となり利便性が向上したが、その後、利用者は固定化していると考えられる。

平成 29 年 9 月実施 「浜松市立図書館 利用に関するアンケート調査」集計結果より

	貸出サービスに満足していますか？ (図書 12 冊・AV 資料 3 点、15 日間貸出)	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
		5	4	3	2	1
全館	4.42					

- 貸出サービスに対する満足度は前年度より 0.06 増加した。

## 見 本

項 目	認 知 度 (%)			平 均 点 (5 点満 点)
	知っている	知らない	未 回 答	
図書館のホームページ	80.95	10.69	8.36	3.93

- ・認知度は前年度より 4.27 ポイント増加したが、満足度は 0.07 減少した。

### 【課 題】

- ・有効登録者数の向上  
増加傾向にあった有効登録者数が、今年度は減少に転じた。これまで家康くんをデザインしたカードの導入や新規図書館の開館といった増加要因があったが、今後は新規利用者の開拓とともに、現在の登録者の確実な更新を促す必要がある。
- ・図書館 HP アクセス数の増加  
アクセス数は増加を続けてきたものの、やや頭打ちとなった様子がある。HP の利便性を向上させ、利用促進のための PR をする必要がある。

### 【今後の方策】

- ・電子図書の実証実験を実施中であることに併せて、これまで利用の少ない大学や関係機関に出向き、図書館の利用案内を行う。
- ・時宜を得た選書や興味をひく展示、各種事業の実施により、常に利用者に飽きられない図書館であり続ける工夫をする。
- ・利用者からいただいた意見などを参考とし、図書館 HP がより見やすく、利用しやすいものになるよう改修するとともに、その存在と機能を PR して認知度を高める。

### 【外部評価】

#### 【評価の内容】

- ・図書館離れ、紙の本離れが懸念される中、年間貸出冊数、年間入館者数が目標値を上回ったことは評価できる。
- ・「登録者数＝利用者数」ではない。貸出サービスだけでなく、居心地のよい環境が図書館に求められている。
- ・新規登録者数の伸び悩み、有効登録者数や年間貸出利用者数などの減少が見られるものの、都田図書館新設による効果の落ち着きやまゆう図書館の改修工事による部分休館などの要因があり、自己評価は妥当・適切である。

#### 【課 題】

- ・人口減の中、有効登録者の減少も顕著である。今後も続くと考えられる自然減の傾向を防ぐためにそれぞれの年齢層に向けた対策を講じる必要がある。
- ・若い世代への働きかけとして、幼児・児童を対象とする読み聞かせにおける中学生、高校生、大学生の短期ボランティアの活用（その間、保護者は館内で自由にできる）、高校や大学に出向いての啓蒙活動などが考えられる。
- ・現在登録している利用者に対し、確実な更新を促す仕組みと PR が必要である。
- ・HP を改修するにあたり、認知度を高める方策と引き続き利便性を高めていく努力が必要である。